

令和3年度 焼津市自治基本条例

まちづくり市民集会 報告書

令和4年1月8日(土)開催

焼津市自治基本条例まちづくり市民集会 実行委員会

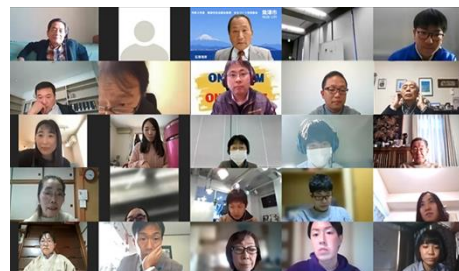
実行委員会からの報告 ～8回目の「まちづくり市民集会」～

令和4年1月8日(土)に Zoom による完全オンライン形式にて、8回目となる「まちづくり市民集会」を開催しました。一般参加の市民や学生をはじめ、自治会関係の方、副市長、市議会議員、市職員等、10代から80代の多様な世代・立場の70名を超える多くの方々にご参加いただきました。第6回の市民集会まで年々参加者が増え、まちづくり市民集会が「焼津の文化」になりつつある中、第7回の市民集会は、新型コロナウイルスの感染拡大により一堂に会しての開催を中止し、市民・議会・行政の150名からアンケートにより意見を募集しました。

今回も新型コロナウイルスの感染状況が予測できない中、「焼津の文化」を未来につないでいくために「開催」を優先し、Zoom による完全オンライン形式で開催することを決定しました。

事前準備として、Zoom の使い方がわからない人のために「Zoom の使い方講座」を開催し、参加者用の「Zoom マニュアル」も作成・配布しました。開催当日は、申込をいただいた全ての皆様にご参加いただき、Zoom による新たなつながり方を実感してもらうことができました。

改めまして、まちづくり市民集会に関わっていただいた全ての皆様にお礼を申し上げます。



Zoom (ギャラリービュー)

実行委員会では、市民集会の成果を今後のまちづくりに活かしていけるよう、市民・議会・行政の皆さんと共有するための振り返りの話し合いを行い、本報告にまとめました。

●テーマ「未来につなげるまちづくりⅡ～with コロナの先へ～」

第1回の市民集会は、平成27年3月に「焼津市の未来・わたしたちの暮らしと自治基本条例」をテーマに開催しました。その話し合いで、まちづくりには「人とのつながり」や「お互いを知る」ことが大切だということを再認識しました。回を重ねるごとに、まちづくりに対する想いやアイデアなどが参加者の皆さんからたくさん出てくるようになりました。テーマを決める際は、「人とのつながり」を念頭に置きつつ、その時期に焼津で一番ホットなテーマを設定しています。

対面での開催が中止となった第7回のテーマ「未来につなげるまちづくり with コロナ～わたしができること～」について実施したアンケートでは、コロナ禍によって困ったことや苦労したことなどの多くの意見が寄せられました。また、そのような状況でも、つながってほしいという想いが随所に見受けられました。このアンケート結果を踏まえ、第8回のテーマを検討しました。新型コロナウイルスの影響がいまだに続く中、前回のテーマである「with コロナ」の先を見据え、アンケートで多く

の意見があった“つながり”の重要性について見つめ直し、未来にまちづくりをつなげていきたいと考えました。そのために一人ひとりができることやあったらいい仕組みなどをもう一度前向きに話し合いたいという思いから、テーマを設定しました。

- Zoom によるオンライン開催でつながりの大切さを再確認！with コロナ時代に想いを“つなげる”新たなカタチができました。

Zoom のブレイクアウトルームで話し合いを実施しました。オンラインに慣れていない人も多かったのですが、リモートでもつながることができること、話し合いが盛り上がることを実感することができました。

今回のまちづくり市民集会の一番の目的であるリモートでも“つながる”ことを実感し、つながりの新しい可能性を考える機会とすること、with コロナで経験した「つながりの希薄化」などの困難（マイナス）を、「離れていてもつながれる」といった強み（プラス）にするチャンスとして捉え、前向きに話し合うことを達成することができました。

with コロナ時代に想いを“つなげる”新たなカタチ



離れていてもつながれることを実感しました！ リモートでも笑顔がたくさん見られました！

- 「コロナ禍でいろいろなことが変わった今、“あなたにできること”“みんなでできること”“あったらいい仕組み”は何か？」について、たくさんの提案・ヒントが出ました。

8のグループからたくさんの素晴らしい提案がありました。それらの提案を「みんなでつながり、みんなで支え合う『オールやいづ』のまちづくり！」とまとめました。

コロナ禍によって、地域や学校、職場などあらゆる場面で人とつながる機会が減り、コミュニケーションが不足してさみしいという意見が多く出ました。その意見には、人とつながってほしいという強い想いがあったのが印象的でした。一方で、オンラインでつながることができる人は、Zoomなどでつながりを維持しており、つながれる人とつながれない人の格差も浮き彫りになりました。

with コロナの時代に、その格差をなくし、それぞれがまちづくりに参加するには、“つながる仕組み”が必要になります。子どもや若者から高齢の方までを巻き込んで、それぞれをつなげていく。皆さんがつながることが、それぞれの豊かなくらしにつながり、誰もが住み続けたいまちをつくっていくことになるのです（5ページに提案のまとめ、6ページ以降に全グループのグループワークのまとめ）。

●話題提供が好評でした！

話題提供は、「焼津商工会議所青年部・大井川商工会青年部」。コロナの影響で全ての事業が予定通り行われなくなった中、在宅で花火を楽しんでもらうことができないかという発想から、令和2年11月7日に市内13カ所で花火を同時に打ち上げるという企画を実施しました。これまでに例のない取組から、コロナ禍において多くの制限がある中で、どのように人とのつながりをつくっていくか、まちづくりをしていくのか、ヒントを得ることができました。また、実際に花火を見ていた参加者も多く、関心を集めました。



ONE TEAM YAIZU ～子どもたちの未来のために～ 画面共有資料

2人で話題提供

●高校生の活躍でグループワーク・発表が盛り上がりました！

今回も、高校生がたくさん参加してくれました。コロナ禍で学校生活が一変し、休校やお弁当の黙食、学校行事の中止・延期により、コミュニケーションが十分に取れていない状況ですが、若い世代として何ができるのかを大人に交じって真剣に考えてくれました。グループワークでは、みんなしっかりと自分の意見を持ち、堂々と発言できるので、同じテーブルの大人たちは感心したり、刺激を受けたりして交流を楽しんでいました。「もっと地域の人などと交流したい」、「若い力をもっと使ってほしい」といった力強い発言もありました。

発表の場面では、グループの代表として発言する学生もいましたが、しっかりとグループの意見をまとめて発表し、アドバイザーの松下啓一氏の質問にもしっかりと返答してくれたため、オンライン会場全体が大いに盛り上がりました。



グループワークの様子

堂々と発表！

●新しいものが生まれる場に

10代から80代の様々な立場の参加者が同じグループに分かれ、同じテーマで意見を交わしました。まちづくり市民集会は、いろいろな意見を聞くことで参加者それぞれに“気づき”や“交流”が生まれることを目的にしています。

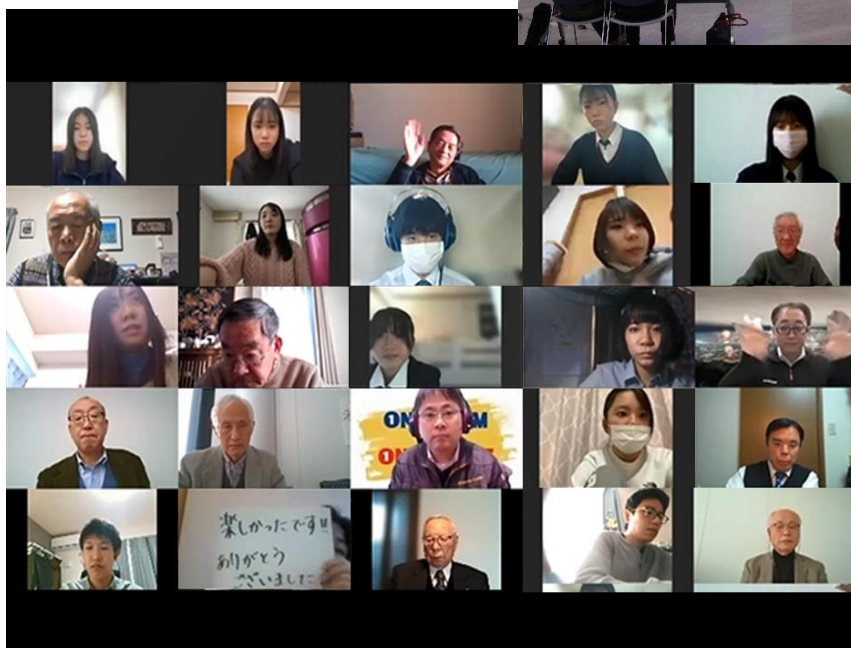
参加者からは、「リモートで初対面の人とのグループワークだったのに想像以上の充実感だった」「想像よりざっくばらんに話し合いができて楽しかった」「とてもいい空気のオンラインイベントだった」といった感想があり、オンラインでのつながりでも楽しく対話ができることがわかりました。

また、「小さなことでも一人ひとりできることはあるため、行動を起こしたい」「知り合いを誘って、まずやってみよう!」「地域の人と連携を取りたいと思った」「若い力を生かせるような取組を考えたい」など、with コロナの先を見据えて一歩を踏み出す前向きな感想がありました。

今後も“気づき”と“交流”が生まれる場を工夫して作っていきたいと思います。

●今後も「まちづくり市民集会」へのさらなるご参加・ご支援をお願いします。

この市民集会自体が全国的にも稀少で、「焼津の文化」であり、「まちづくりの資源」とであると松下啓一氏からアドバイスをいただいています。今回の Zoom 開催により、離れていても楽しくつながることができることがわかり、今後の広がりも期待できます。市民手づくりの「まちづくり市民集会」が年々発展しながら継続していけるよう、市民・議会・行政の皆様のより積極的なご参加とご支援を引き続きよろしくお願いいたします。



リモートでも、楽しくつながることができました！

令和4年1月8日(土)開催

Zoomによるオンライン開催!

未来につなげるまちづくりⅡ～with コロナの先へ～

令和3年度 第8回焼津市まちづくり市民集会のまとめ



リモートでもつながる!盛り上がる!

Zoom で つながりの大切さを再確認!

市民集会発

with コロナ時代に 想いを“つなげる” 新たなカタチ

＜ コロナ禍で困ったこと ＞

- ・人と接する機会が減り、コミュニケーション不足がづらい
- ・マスクで表情がわからない
- ・学校行事や自治会活動など、みんなで協力する機会が減った
- ・保護者や地域の人など、みんなと交流したくてもできない
- ・デジタルに不慣れな人が取り残される

＜ コロナ禍で生まれたこと ＞

- ・Zoom で遠い人や普段話さない人とつながることができるようになった
- ・マスク無しのオンライン会議では表情がわかりやすい
- ・オンライン会議などにより業務が効率化され、ICT スキルが向上した
- ・焼津のことや身近なことの良さを知ることができた

《 つながる方法 》

- ・若者と高齢者の交流の場づくり
「ゆるいつながり」「ソフトなつながり」
(若者が高齢者に Zoom を教え、高齢者が若者に文化などを教える)
- ・どんな世代も参加できる Zoom の講座の開催
(Zoom を利用できる人を増やしてつながりを広げていく)
- ・中学生や高校生などの若者が活躍できる仕組みづくり
(協力が得られるきっかけづくり・活躍できる場づくり)
- ・いろいろなオンライン講座を開催
(趣味などの講座の種類を増やし、参加者が選べるように)

つながれる人とつながれない人の
「格差」をなくす仕組み

《 人とつながる 》

- ・Zoom を活用して対話
- ・学校の昼食時の校内放送を活用
- ・オンラインのコンテストを開催
- ・若者と高齢者を現役世代がつなぐ

《 地域とつながる 》

- ・隣組などの良さを再認識
- ・高齢者等の外出支援
- ・ミニデイサービス・居場所支援
- ・中高生と地域がつながる場づくり

つながる方法を見直すことで

つながりを保ち続け 心豊かなくらしにつなげる

みんなでつながり みんなで支え合う

「オールやいづ」のまちづくり!



グループワークまとめ

「コロナ禍で変わったこと、苦労したことに対して

“あなたにできること” “みんなでできること” “あったらいい仕組み”」

1 グループ

【コロナ禍で変わったことなど】

- 集まることができなくなり、自治会関係の引継ぎなどができなかった。地域の絆は少しずつの積み重ねが大事なので大変だった。
- 家にいることが多くなった。コロナ禍で高校受験を経験した。友達とはリモートで支え合った。
- 地域や人とのつながりが大切だと考え、SNS を活用した。コロナ禍でいろいろなことが省略されるようになり、本当に必要なものが残るようになってきた。
- 1年生のときは行事ができなく、2年生になって生徒会活動などやろうとしても段取りがわからなくなっている。
- 終業式等が教室で行うようになったため、夏はクーラーで涼しかった。
- Zoom で遠い人や普段話すことができない人とつながることができるようになった。コロナにより直接対面しなくてもいいという面で技術が進歩したと思う。
- 会合などがなくなることが多く、自分の時間ができ、自分に向き合えるようになった。

【できることやあったらいい仕組み】

- 仕事上で細かい点まで情報の共有化ができるようにマニュアルの作成を進めている。現在は、個人情報の保護や情報漏洩の問題なども考慮し、業務の洗い出しを行っている。
- 港第 23 自治会では、12 月から買い物支援事業を始めた。月 2 回イオンへの買い出しがメインだが、今後は花見など拡大していきたいと考えている。
- 焼津市に住んではいないが焼津の魅力を発信できればいいと思う。

【その他】

- 近所の子供たちは花火を楽しみにしていた。
- 自治会行事への参加は、小学生の頃は防災訓練や地区の行事に参加をしていた。イベント等の情報はホームページやインターネット等から得ている。広報紙もたまに見ている。
- 生徒会の立候補演説のテーマはつながる（コネクト）だった。
- 高校生の情報源はツイッターやインスタグラムになっている。情報を発信するよりは友達同士ですることが多く、ツイッターよりインスタグラムを使う。部活のダンスのスケジュールはインスタグラムで受信している。ティックトックも友達同士で動画を撮ったりしている。
- 自治会の行事で小中学生まではつながりがあるが、高校生になるとつながりがなくなる。

2 グループ

【コロナ禍で変わったことなど】

- 学校生活に戸惑いしかなかった。行事が中止、変更となり、黙食等コミュニケーションが制限される。
- 冠婚葬祭・結婚式のお祝いができない。
- 自治会の行事の中止、制限。祭り等地域の伝統文化の伝承が途切れることが心配。心のよりどころである祭りでも、先輩（高齢者）から後輩（地域を担う若者）に地域の文化を伝承できないことで生き甲斐を見失う、責任が果たせない。
- 外食を含む飲食の制限、自粛「飲み会の減で家庭の時間増」
- 高齢者等の生活困窮や孤立、居場所づくり（公民館や空き家の活用）
- 行政の取組を市民に直接伝えることができない。
- 市民、地域住民の意見を広く吸い上げることが困難。
- 対面して話ができる方が限られ、偏った意見になる懸念が生じた。
- SNS や電話、年賀状を活用し、人とのつながりを意識するようにした。
- 対面では安易に伝えられる香り等画面では伝えられないので、雰囲気づくりをして伝える工夫をしている。
- 公民館祭りで生涯学習の発表が、対面から写真展示等できる形態に変化した。
- 帰省できない家族、親族、友人と SNS でつながれた。

【できることやあったらいい仕組み】

- 学校の食事の時間で校内放送を活用（先生が DJ となるなど）
- SNS の活用
- Zoom 講習を開催し高齢者の孤立を防ぐ。
- 伝統文化の伝承を助成、発表の場を作る（映像で残し、YouTube 等を活用）
- 高校生と地域の方とのつながれる場を作る。
- with コロナの時代にあった仲間づくり、仲を深める方法を探る。付き合いが希薄になりやすいので意識をして付き合う。

【その他】

- 小学校での花火打ち上げ、花火の玉にシールのアイデアは素晴らしい
- どのような形でも、人とつながれることが楽しい。

3 グループ

【コロナ禍で変わったことなど】

- 感染防止にマスク着用、アルコール消毒、3 密防止は常識化した。
- この 2 年間風邪を引かなくなった。
- 介護施設・障害者施設での面会禁止が徹底されている。
- 会社関係では使用した机は使用後、消毒するようになった。

- ・会議室での定数制限をしている。
- ・デジタル化が進んだ。
- ・会社では出張が減り、オンライン会議が多くなって楽になった。
- ・オンライン会議ではマスク無しで会話ができるので表情が分かりやすい。
- ・行動範囲が狭くなった。
- ・日帰り温泉では黙浴が徹底されている。
- ・各行事が中止になって多くの人との接触する機会が少なくなった。
- ・地域でのコミュニティ活動が少なくなった。
- ・この機会に健康を見直すことになった。
- ・高校生は長期休みの時も遠くへの行動ができなくなっている。
- ・高校では全校で集まる機会が無くなって残念。
- ・マスクをしていると表情がつかみ難くなった。
- ・健康管理する機会が増えた。
- ・学校では触った物のアルコール消毒が徹底されている。

4 グループ

【コロナ禍で変わったことなど】

- ・従来どおりの業務ができず効率が落ちた（介護保険の業者訪問、議会、綱引き競技 等）。
- ・修学旅行の行先が変わってしまい残念であった。また、入学時からマスクを外していな
いたため、顔が分からない同級生もいる。
- ・業種により異なるが、忙しい事業者もあれば全く仕事が無くなってしまう事業者もあり、
格差が広がったように感じる（忙：ゴミ関連業者、水産加工業者 閑：飲食業者）。
- ・集まりたい時に集まらない、気軽に旅行にも行けずストレスが溜まっている。
- ・手洗い、うがい、マスク着用のお陰でインフルエンザが減った。
- ・SNS やリモート通信の進歩。出張も減り効率化された。

【できることやあったらいい仕組み】

- ・近隣住民との繋がりを強く持つ。「となり組」の強化。
→SNS 等が利用できない高齢者や、困っている方を支援。
- ・気軽に会えないからこそ、SNS（インスタグラム、ツイッター 等）やリモート通信ツ
ール（Zoom 等）を利用し、コミュニケーションを取る。
→商工会では、SNS の使い方が分からない会員に向けて、勉強会を実施。行政からも当
該支援があれば改善が図れる。

5 グループ

【コロナ禍で変わったことなど】

- ・高校では昨年の4月～5月が休校になった。
- ・中3後半にコロナが始まり、卒業式は短縮、高校でも休校など行事もなく理想が崩れた。

不安も大きく、ロボットみたいな生活をしている。

- 市の事業も中止が続いた。
- 高校生の気持ちとしては、保護者や地域の人などみんなと交流したかった。
- LINE などは、相手の顔が見えないので言葉の行き違いがある。

【できることやあったらいい仕組み】

- 2年目を迎えて、正確な情報共有など、できることを行うことが大事。
- オンライン講座（講演会、ウェビナー）で趣味を広げる（美術館プログラムなど）。
- オンライン講座をたくさん開いて選べるようにする。
- コロナが収まったときに、すぐできる準備をしておく。落ち着いたらすぐやる！「すぐできるパッケージ」を作る。
- 一人ではできなくても友達とならやってみようと思う。「ちゃんと聞いてもらえる」感覚があれば参加できる。

【その他】

- 花火は目的意識がしっかりあり、サプライズでよかった。
- 地域では高校生にもできることは大きい。

6 グループ

【コロナ禍で変わったことなど】

- お昼の弁当が黙食で会話が無く寂しい。
- 文化祭、体育祭等が中止や規模縮小で絆が作れない。
- 修学旅行の場所が変更になった。
- 会合や酒宴の席が無くなり、コミュニケーション不足が辛い。
- 旅行に行けなくなった
- 老若男女問わず、会えないことで絆が作れない。

【できることやあったらいい仕組み】

- TikTok を用いたコンテストがあったらぜひ参加したい。
- 心の「密」だけは深くあるべき
- 第6自治会ふれあいサロン「けやきの会」遠方の農家同士が参加する Clubhouse
- 若い方がご年配の方ともう少し交流をもてる環境
→Zoom などの操作が大変な方も簡単にできて、デジタルの活用も進むし、交流の中でご年配の方から学ぶこともできる。そういうことの全てが心身の健康につながる。
- デイサービスに足が運べない人のための送迎サービス

【その他】

- 花火は良かった。感動した。コロナ禍だからこそできた。

7グループ

【コロナ禍で変わったことなど】

- ・マスク生活に慣れたせいで、逆にないと不安になる。
- ・ファミリー向け飲食店も入店から会計まで、すべてが非接触に変わってきたため、店員との触れ合うことがなくなった
- ・修学旅行の行き先が、沖縄から長崎へ変更になった。
- ・高校に入学してから昼食はずっと黙食であり、誰かと食べたことがない。
- ・市役所の窓口業務をしているが、表情を把握できずコミュニケーションが難しくなった。また、衛生面での業務が増大し負担になっている。
- ・顔を合わせて行う様々な会議が中止、延期となった。代わりに ZOOM を利用できるようになり、ICT スキルの向上につながった。
- ・高齢者などデジタルに不慣れな人が取り残される。

【できることやあったらいい仕組み】

- ・つながり（接点）を維持すること
- ・企業、団体、行政など今以上に連携していくことが必要
- ・高校生を生かす仕組み
→協力を得られるようなきっかけづくりや活躍できる場づくり

【その他】

- ・ICT スキルを様々な世代に普及させるためにどんなことができるか
 - ①まずは怖がらずに試してみる
 - ②使い方を学べる場所を身近なところに設置すること
→高校生が教えることもできる。
→新たに設置するよりも、既存の組織、団体を生かすことも必要
 - ③高齢者の居場所を作ること
 - ④様々なことを提案したり、想像したりすることはできるが、本当のアクションに起こすには、当事者意識をもった実行力のある人財が必要不可欠。そういった人材育成を、幼少期から行っていくこと

8グループ

【コロナ禍で変わったことなど】

- ・仕事がなくなってどうしようという相談が増えた。
- ・求人を出しても応募がない（マッチングがうまくいっていない）。
- ・人手不足⇔失業者が多い
- ・修学旅行の行き先が変更になったり、時間差登校や文化祭が中止になったりしたことなどにより、みんなで協力する機会が減った。
- ・意思の疎通が図れない。

- 親は学校の様子がわからない（先生のことと同級生のこと）
- 遠くに出掛けられなかったので、焼津の中で焼津のことを知ることができた（公園散策等）。
- 疎遠になっている友達や遠い親戚のことを考えるようになった。
- 自分が関わったことで喜んでもらえるのがうれしい。

【できることやあったらいい仕組み】

- つながれる人とつながらない人との格差を解きほぐしていく（特に高齢者男性）仕組み
- ゆるいつながり・ソフトなつながり→若者・地域で
- 世代間情報収集格差をなくす（Zoom 講座やパソコン講座等高齢者でも参加できる講座がもっとあると良い）。

【その他】

- 年代の差を越えて話すことができた。知らなかったことも知ることができて良かった。
- ピンチはチャンス、きっかけがあって始めたことを継続している。
- 初めてあったメンバーで（しかもリモートで）こんなに打ち解けて話ができると思っていなかったのがビックリした（ファシリテーターの力で盛り上げられる）。